

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月25日

学) あすなる学園 あすなる幼稚園

1. 本園の教育目標

- ①社会性、読解力が育つ。 ②“美意識”が育つ。 ③レジリエンスのある心身が育つ。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ①自分のまわりの、ヒト、モノ、コトに関心を持ち、自分で考えたことを自分の言葉であらわしたり、行動したり、表現したりする。
 ②文学やアート、自然から“美”を感じる体験をする。
 ③身辺自立等、社会生活に必要なことは自分でできるようになっていくように心身の発達を促す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
①	ヒト/コトを一人一人の子が、自分自身の事として受けとめられたか。	A	・子どもが何をどう予測するのかを見通しながら、状況設定したりして、子ども発信になる活動を心がけた。
②	日常の中に“美”を感じることでできる体験が十分にできたか。	B	・特に5才以降は、造り込むことを意識した保育になるように努めた。 ・美を意識した教材の選定を行った。
③	身辺自立等、社会生活に必要なことは自分でできるようになっていくように教師が子どもに関わることができたか。	A	・子ども一人一人に即した形で、その場面場面での対応が十分にできるように、教師間の協働を積極的に行ったため、じっくりと子どもに対応できた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	経験の浅い教師が、子どもへの対応や状況の判断で、ついつい見逃したり曖昧になってしまいそうなところをホローしていくことが、かなりできていた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境としてのヒトの充実	・子どもが主体的、意欲的に取り組む環境としてモノやコトを増やしていくのには限界があるが、その点、イメージーションというヒト環境は無限と言える。「ヒト環境の充実」をテーマに取り組むことで、さらに充実していくと考えられる。
2	保育の質、教師の質の見直し	・ベテランも多くなって保育が安定していることはとても評価できるが、マンネリ化が懸念される。新しい視点での保育活動の精査をしていく必要がある。 ・教師の質を均一にしていくことは、基本的なところでは必要だが、それぞれの教師の特徴を上手にかみ合わせて、子どもの体験の幅が広がり深まるようにしていくことが、その次に求めていくことと考える。

6. 学校関係者評価委員会の評価

教師の協働の姿や各教師が、自分の思いを言葉にしたり相談ができていくという報告があり、職場としても魅力的な職場になっているように評価できる。今年度は、保育施設でいろいろな事故や事件が報道されて、マイナスな意味での注目が集まったが、そういったことには無縁な園と信じている。今後とも、高い理想を持って保育に邁進してほしい。